

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 56号

2013/07/08 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：テクニカル要因が買われ相場上昇に転じた週。新物の売りも今後注目。

①週最高：LDN 市場 £1,532 / NY 市場 \$2,230 (7/4、7/3)	先週比 LDN+£6/NY-\$51
②週最低：LDN 市場 £1,452 / NY 市場 \$2,159 (7/1)	先週比 LDN+£32/NY+\$10
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £80 (傾向↑) / NY 市場 \$71 (傾向↑)	
週内建玉推移：LDN 市場枚 241,557⇒235,455枚	-6,102枚
NY 市場 178,692枚⇒180,602枚	+1,910枚

【7月1日(月)】ニューヨーク、ロンドンとも反落

ココア先物は、ニューヨーク、ロンドン市場ともに反落。カカオ豆の最大産地のコートジボワールにおける生育条件の改善が背景。

ニューヨーク市場の9月きりは、5ドル(0.2%)安の**2159ドル**で終了。ロンドン市場の9月きりは、6ポンド(0.4%)安の**1452ポンド**で引けた。

【7月2日(火)】ニューヨーク、ロンドンともに反発

ニューヨーク、ロンドン両市場ともに反発。ディーラーによると、メーカーの手当てが十分なことや、産地筋による2013~14年産の売りが進んでいることから、方向感に乏しい展開という。ニューヨーク市場の9月きりは19ドル(0.9%)高の**2178ドル**、ロンドン市場の9月きりは22ポンド(1.5%)高の**1474ポンド**でそれぞれ引けた。

【7月3日(水)】NY市場、3カ月ぶり上げ幅=ロンドンも上伸

ニューヨーク市場がテクニカルな買いに3カ月ぶりの上昇幅を記録したほか、ロンドン市場も上伸した。ニューヨーク市場の9月きりは52ドル(2.4%)高の**2230ドル**で引けた。2200ドルを突破した段階で、ストップロスの買いが入った。ポンドが対ドルで上伸したことも、ニューヨーク市場での買いを促した。4日の米独立記念日休日を控えているにもかかわらず、出来高も膨らんだ。ロンドン市場の9月きりは24ポンド(1.6%)高の**1498ポンド**。

【7月4日（木）】ロンドン続伸

ロンドン市場の9月きりはテクニカルな買いが入って続伸し、34ポンド（2.3%）高の**1532ポンド**。ロンドンのココア先物トレーダーは、「テクニカルなショートカバーが入った」と話した。

ディーラーらによると、ガーナで降雨が十分ではないとの懸念が出て、相場を押し上げた一要因となった。

マレックス・スペクトロンの農作物オプション部門の責任者、エリック・シブリ氏は「ガーナ産の新穀の売りがいつ再開されるか多くの関係者が知りたがっていた」と話した。

また、「コートジボワール産の新穀は先渡しで57万5000～62万5000トン相当になる見込み」と話した。

ニューヨーク市場は、独立記念日で祝日のため休場。

【7月5日(金)】テクニカルな売りで反落

ニューヨーク市場のココア先物は反落。序盤に上昇していたものの、2週間ぶり高値となる節目の2250ドルを突破するとテクニカルな売りが出た。9月きりは26ドル安の2204ドルで引けた。

ロンドン市場も反落。9月きりは一時1547ポンドの高値を付けたものの、終値は6ポンド安の1526ポンドだった。

2、米カーギル、ADMのカカオ豆事業買収を検討＝関係筋(7/2)

関係筋が2日、明らかにしたところによると、米アグリビジネス・穀物商社カーギルは、米同業大手アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド（ADM）のカカオ豆事業の買収を検討している。

同筋によると、カーギルは6月、ADMの同事業についてデューデリジェンスを実施した。ただ、カーギルがADMに対し買収提案を行ったかどうか、あるいは今後行う意向があるのかどうかについては不明だという。買収額は20億ドル規模と見積もられている。

ADMは6月、カカオ豆事業の売却の可能性について協議中との声明を発表。今回それ以上のコメントは控えた。

カーギルの広報担当者はADMの同事業に対する関心についてはコメントせず、電子メールで買収案件について引き続き検討するとしている。

3、コートジボワール、今年度8カ月間のカカオ生豆輸出は前年比9%超増(7/1)

1日に公表されたコートジボワールの港湾暫定データによると、今年度（2012年10月～13年9月）5月までの8カ月間のカカオ生豆輸出量は93万1074トンとなり、前年同期（85万1938トン）比9%超増加した。5月の輸出量は3万6580トンで、内訳はアビジャン港経由が1万9155トン、サンペドロ港が1万7425トンだった。

4、コートジボワール、今年度8カ月間のカカオ半製品輸出は前年比15%増(7/1)

1日に公表されたコートジボワールの港湾暫定データによると、今年度（2012年10月～13年9月）5月までの8カ月間のカカオ半製品の輸出量は25万7969トンとなり、前年同期の22万4169トンから15%増加した。

同国は08年以来、カカオ豆加工施設への投資により、国内でのカカオ粉砕のシェアを大幅に拡大している。10年には粉砕能力が53万2000トンに達し、オランダに代わり世界トップになった。5月のカカオ半製品輸出量は2万9196トン。内訳はアビジャン港経由が1万8959トン、サンペドロ港が1万0237トンだった

5、12～13年度のナイジェリア・カカオ豆生産、前年比40%増に(7/2)

ナイジェリア・カカオ協会のスポークスマンは1日、2012～13年度のカカオ豆生産は適度な降雨と日照に恵まれ、前年度（約20万トン）比40%増の28万トンに達するとの見通しを示した。ロイター通信との電話インタビューで明らかにした。13～14年度については、前年比15%増の32万トンもしくはそれを超える見込みだという。生産農家らによると、降雨による土壌水分の増加で、カカオの木の生育は順調。一方で、晴れた天候により、同国の年間生産量の3～4割に影響を及ぼすかび病のリスクは抑制されている。

6、ICCO 発表 12～13 年度のインドネシアカカオ生産、事前予測の 5%減の 45 万トンへ(7/8)

ICCO は 2012/2013 シーズンのインドネシアのカカオ生産数量について、カカオの木が老齢化していること等を理由に予測を 5%以上切り下げ 45 万トンの予測とした。

現在、コートジボアール及びガーナに次ぐ世界第 3 位の生産国であるインドネシアの大半のカカオの木は 1980 年代に植えられている。インドネシアでは小規模生産者が国全体に広がっており、また古い木い為、病虫害などの対応に弱く、時間を要する為、生産数量が伸び悩んでいる傾向にあるが、今シーズンは、良い天候が続いたことで昨年程度の生産数量は確保できる見込みだ。

ICCO は 2 月に 2013 年 9 月までのシーズンは 47.5 万トンの予測と発表していたが今回若干の下方修正をした形だが、ICCO は比較的良いポッドの生育状態と天候にも恵まれている為、昨シーズンの 45 万トンとほぼ同じレベルになると予測している。

近年の数期間は、インドネシアは毎年カカオ病気や異常な天候によって生産数量に影響を受けてきた。政府は現在全体の 95%のカカオ生産を占める小規模生産者に対して生産数量回復、改善のプログラムを \$35,000 万ドル（約 350 億円）を使って行っている。

7、ICCO 発表 12～13 年度のインドネシアカカオ豆磨砕数量は 28 万トン規模に(7/8)

ICCO はインドネシアの 2012/2013 シーズンのカカオ豆磨砕数量の予測を 28 万トンと、今年 2 月時の予測の 28.5 万トンから僅かに引き下げた。しかしこの数字は昨シーズンの磨砕数量の 27 万トンからは 4%程度上昇している。

インドネシア系の磨砕業者及び、主要な海外の投資家達はアジア市場の可能性に着目して、工場の拡大を加速させている。

インドネシアは、米国の穀物巨大商社のカーギル、世界最大のチョコレート会社バリーカレボーの投資を呼び込み 15,000 万ドル（約 150 億円）規模の設備投資がスラウェシ島に行われる予定だ。

ICCO は 2012/2013 シーズン世界のカカオ豆需給バランスについては、以前の 4.5 万トンの不足から 6 万トンの不足に不足幅が拡大する予測としている。

また 2011/2012 の需給バランスは 84,000 トンの供給過多であった。

今週の関連ニュース) ドル、101円台で堅調=米雇用統計改善で買い優勢

8日の東京外国為替市場のドルの対円相場は、前週末発表の6月の米雇用統計が予想以上に改善したことで買いが優勢となり、1ドル=101円台で堅調に推移する見通しだ。ドル円は前週末に101円台前半に乗せたが、週明け東京市場の早朝から続伸し、上値を追う構えとなっている。予想レンジは100円80銭~101円80銭。6月の米雇用統計は非農業部門就業者数が19万5000人増加し、市場予想の16万5000人増を大きく上回った。これを受けてドル円は100円台前半から101円台前半に一気に水準を切り上げた。FRBの出口政策への懸念から株価が売られる恐れもあったが、実際には株価は大きく反発し、ドル円の上昇をサポートした。

東京市場の早朝は101円20銭前後で推移したが、徐々に買いが優勢となり、101円40銭前後に続伸している。市場関係者は「雇用統計後の上げ足がかなり速かったため、いったんは利食い売りが強まる場面もあるだろう」(大手邦銀)としながらも、雇用統計で米金融市場が株高・債券安(金利上昇)と「ドル高・円安が最も進みやすい市場反応になった」(外資系証券アナリスト)とされ、ドル円は終日堅調が見込まれる。このほか、日銀に加えてECBと英中銀が緩和スタンスを明確にする中、FRBは出口政策を目指すなど「主要国の中では唯一米国の金融政策が引き締め方向となり、ドルが前面高になりやすい」(為替アナリスト)こともドル円の支援要因。市場関係者は「現状ではドルを積極的に売る材料は見当たらず、目先は5月下旬に付けた103円台後半の高値を意識した展開になるのではないか」(FX業者)とみられる。

本日は、統計関係は東京時間には5月の国際収支、6月の豪求人広告件数、欧米時間は5月の独鋳工業生産などの発表が予定されている。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp